## 第3 主な事業実績

# 1 畜産振興対策

## (1) 経営指導関連

## ア 畜産コンサル体制強化支援事業(県・受) 令和3年度~ 27,741千円

県及び地域の指導機関等と連携し、畜産農家の個別指導(収益性分析・生産技術指導)、 グループ指導(交流会・研修会等)を実施した。また、肉用牛繁殖・酪農の生産・出荷 情報等をとりまとめ、定期的に生産者及び技術員等に提供し、地域指導の円滑な実施を 支援した。その他、ホームページ及びSNSを活用し、畜産振興事業、畜産物価格情報 等をリアルタイムに提供することで、本県畜産情報の積極的な発信を行った。

#### (ア) 畜産農家の指導状況

指導	区分	酪農	肉用牛	養豚	合計	備考	
個別指導	[ (件)	29	138	38 73 240		経営診断、生産技術指導	
グループ	交流会	1回、参加人数 25人			後継者等交流会		
指導	研修会	8 回、参加人数 169 人			生産技術・経営研修等		

## (イ) 経営分析結果の提供

区分	酪農	肉用牛	合計	
二、200年代米	178	7, 230	7, 408	
データ収集件数	(実戸数90)	(実戸数 5,041)	(実戸数 5, 131)	
江 小士 平 / 小米	178	1, 490	1, 668	
延べ支援件数	(実戸数90)	(実戸数 710)	(実戸数 800)	

#### (ウ) 畜産関係情報の発信

	更新/投稿回数	
ホームページ	45	
フェイスブック	公益社団法人 宮崎県畜産協会	84

## イ 畜産経営技術指導事業(地方競馬全国協会・補)昭和41年度~ 17,799千円

畜産経営を支援する国・県等の事業を補完し、本会の畜産コンサルタント機能を活かした経営指導及び情報提供等について、積極的かつ各事業の総合的な取り組みを実施した他、地方競馬のPR活動を行った。

加えて、未来の畜産業の担い手となる農業高校生及び女性畜産農家が講師となり、一般 消費者親子10組を対象とした肉用牛体験教室を実施した。

## ウ 畜産特別資金等推進指導事業(中央畜産会・補) 昭和56年度~ 11,033千円

畜産特別資金等借受者の改善計画達成を支援するため、関係機関で組織する支援協議会を 開催し、改善指導情報の共有化及び農家指導体制に係る協議を行った。

併せて、新規借受者の計画作成指導、既借受者等の見直し計画作成及び計画達成のための 指導を実施し、地域の融資機関等における指導を支援した。

借受者の経営改善のための指導回数

	指導区分	回数	指導戸数(延べ)
а	改善計画作成に係る指導	10	計10戸 (肥育牛10)
b	改善計画見直しに係る指導	10	計 26 戸(繁殖牛 9、肥育牛 8、肉用牛一貫 2、 酪農 2、養豚 5)
С	改善計画達成に係る指導	62	計 62 戸 (繁殖牛 9、肥育牛 28、肉用牛一貫 12 酪農 2、養豚 11)

#### エ みやざき畜産生産性向上対策事業(県・補) 令和元年度~令和3年度

10,304千円

本県畜産技術者の指導体制強化を目的に、全国域の著名な講師を招き実践研修を行うことで、高度な指導力を持つ畜産マスターの育成、及び地域指導員等を対象とした講習会を開催し、スキルアップを図った。

併せて畜産マスターの提案する経営改善対策を実践する農家に対し、経費の一部支援を行うとともに、得られた改善事例等について取りまとめを行った。

また、宮崎県農業共済組合が実施する肉用牛繁殖農家を対象とした研修会(動画配信)や現地検討会を開催する取り組みを支援し、生産性向上と本県指導体制の強化を図った。

## (ア) 畜産マスターの育成事業

区分		肉用	牛	酪農	養豚	計
	繁殖  肥育		陷長	食的	市工	
畜産マスター	開催回数	2 2		2	3	9
研修会の開催	研修生人数	8 8		7	6	29
講習会の開催	参加人数	70 23		28	27	148
畜産マスター	派遣回数	5		4	3	12
の派遣	参加人数		90	49	14	153

#### (4) 生產性向上実践事業

対象農場6件(肉用牛4件、養豚2件)

### (ウ) 生産性向上普及・促進事業

区分	回数	研修等内容	備考
畜産研修会の開催	83	呼吸器病の予防	Web 動画配信(回数
ハイクラス研修会の開催	33	呼吸器病の予防	は視聴回数)
担告を予クの目が	G O	呼吸器病対策:25回	
現地検討会の開催	63	繁殖障害内容:38回	

## オ 家畜排せつ物適正処理指導事業(県・受) 令和2年度~令和3年度 4,872千円

家畜排せつ物の適正処理と利活用を推進するため、民間の堆肥生産・流通コンサルタント及び畜産経営環境保全技術支援チームと連携し、良質堆肥の生産に向けた現地検討会や堆肥等の成分分析の実施を支援するとともに、県内外の堆肥流通体制の構築に向けた意見交換、県堆肥センター協議会の運営支援等を行った。

- (ア) 家畜排せつ物の適正処理・利活用支援 12農場、延べ21回
- (イ) 研修会・現地視察・意見交換会 8回
- (ウ) 堆肥成分等分析 22件(牛:13件、豚:5件、鶏:1件、混合:2件、液肥:1件)

#### カ 肉用牛肥育経営体質強化支援対策事業(担い手指導体制構築)(県・補)

令和3年度 10,425千円

コロナ禍の中、厳しい経営環境にある肉用牛肥育経営を対象に、迅速な生産者指導を実施するため、肉用牛肥育経営分析システムを整備し、リアルタイムな分析帳票を生産者やJA等関係機関に提供する体制を構築することで、危機事象に強い肉用牛産地の形成を図った。

## キ 貸付事業指導等事業(畜産近代化リース協会・受) 昭和57年度~ 949千円

畜産近代化リース協会の低利貸付機械の導入と効率的利用を推進するため、貸付機械の確認、管理状況調査・指導及び新規導入推進を行った。

- (7) 貸付団体:宮崎県経済農業協同組合連合会
- (4) 貸付機械の調査件数:10件(自給飼料生産利用機械施設)

# ク 家畜生産性向上対策事業(中央畜産会・受) 平成29年度~ 1,049千円 肉用牛繁殖経営30件において分娩間隔や子牛事故率などのデータを収集し、生産性向上 を図るためのデータ分析及び技術指導を行った。

# 

窓口を設置し、指導体制の充実を図った。

## コ 経営支援指導事業(協会事業)

平成14年度~ 1,847千円

肉用牛繁殖・酪農経営に係る経営分析システムを運用し、生産者毎の技術・出荷情報等を 分析し、結果のフィードバックを行った。

また、利用者ニーズに応じた組合せ集計、参考資料等の作成及び経営分析システムの機能強化等に係る情報収集を実施することで利用会員の拡大に努めた。

支援対象戸数:肉用牛710戸、酪農90戸

## サ 全国域畜産コンサルタント等招へい事業 (協会事業) 令和元年度~ 1,396千円

全国域畜産コンサルタントと連携し、畜産特別資金借受者等の要改善農家に対する濃密指導や生産技術向上のための研修会等を開催した。

濃密指導3回(肉用牛2回、養豚1回)

## (2) 生產振興関連

#### ア 肉用牛経営安定対策補完事業(地域における肉用牛生産基盤強化等対策事業)

(農畜産業振興機構・補) 平成23年度~ 67,875千円

肉用牛生産基盤の強化を図るため、地域の中核的担い手に対する増頭奨励金の交付、JA等が行う繁殖雌牛の導入又は貸付及び肉用牛ヘルパー活動の支援を行った。

区分	員数	単価・補助率等
中核的担い手育成増頭推進	512頭	10万円/頭(431頭)
		8万円/頭(81頭)
遺伝的多様性に配慮した改良基盤確保	50頭	9万円/頭(20頭)
		6万円/頭(30頭)
優良繁殖雌牛導入支援	64 頭	5万円/頭
肉用牛ヘルパー推進	9集団	補助率 1/2 以内

#### イ 畜産経営災害総合対策緊急支援事業(農畜産業振興機構・補)令和元年度~

豪雨、台風、地震等の各種自然災害等による停電等に備え、家畜の生命を維持するための機 械稼動に係る非常用電源の確保を支援した。

## (7) 肉用牛経営災害緊急支援対策事業

6,499千円

経営継続支援対策(非常用電源の整備等) 1 団体(22台)

#### (1) 養豚経営災害緊急支援対策事業

26,909千円

経営継続支援対策(非常用電源の整備等)2団体(17台)

#### ウ 畜産・酪農収益力強化総合対策基金事業に係る業務(中央畜産会・受)

平成27年度~ 12,235千円

畜産クラスター計画に基づき畜産経営者が実施する、収益性向上等に必要な機械装置の導入を支援するため、関係機関との連絡調整を図り、事業推進、各種申請書類のとりまとめ及びデータ整理等の業務を行った。

- (ア) 事業参加要望書のとりまとめ 延べ579件(取組主体数)
- (イ) 事業参加申請書のとりまとめ 延べ542件(取組主体数)
- (ウ) 導入機械の現地確認 10件 (取組主体数)、11基 (機械・装置数)

事業の実施状況 (参考:令和3年度予算配分額)

協議会数	事業費	補助額	戸数	件数	機械数
組織	円	円	戸	件	台
24	3, 325, 957, 952	1, 662, 978, 972	579	1,090	1, 516

## エ 酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業に係る業務(楽酪GO事業)

(中央畜産会・受) 平成30年度~ 459千円

酪農経営の労働負担軽減を図るため、省力化機械装置の導入と一体的な施設整備を支援する取組みについて、県内の楽酪応援会議との連絡調整等に係る推進業務を行った。

## オ 畜産経営体生産性向上対策事業に係る業務(畜産 I C T 事業) (中央畜産会・受)

令和元年度~ 213千円

酪農・肉用牛経営の労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化を図る機械装置の導入を 支援する取組みについて、県内の畜産ICT応援会議から中央畜産会に提出する申請書類等の とりまとめ及び連絡調整等に係る推進業務を行った。

肉用牛 自動給餌機:2件、酪農 搾乳関係機械装置:3件

#### カ 生産基盤拡大加速化事業(肉用牛)(全国肉用牛振興基金協会・受)

令和2年度~ 8,744千円

畜産クラスター計画に基づき、取組主体(JA等)の構成員(肉用牛経営)が優良な繁殖雌牛を増頭し、和牛肉の増産を図る取組みを円滑に行うため、取組主体から全国肉用牛振興基金協会に提出する申請書類等のとりまとめ及び連絡調整等に係る推進業務を行った。

事業の実施状況 (参考)

西米ケマハ	₩光石百米	期末頭数	増頭奨励金					
	頭数区分 期首頭数 (押金)		対象頭数	単価	交付額			
(州目 <i>)</i>	(期首) (頭) (頭) (頭)		(頭)	(円/頭)	(円)			
50 頭未満	18, 367	20, 210	1,666	246, 000	409, 836, 000			
50 頭以上	24, 904	25, 968	1, 140	175, 000	199, 500, 000			
合計	43, 271	46, 178	2, 806	_	609, 336, 000			

## キ 豚登録事業 (日本養豚協会・受)

昭和23年度~ 5,332千円

優良種豚の血統及び改良増殖を推進するため、子豚登記や種豚登録等の証明書発行等を行い、生産基盤の強化を図った。

豚登録・認	頭•件	計		
一腹	記	録	287	
子 豚	登	記	366	
種豚	登	録	307	
系 統 種	豚 証	明	44	1,117頭
一代雑種豚	血 統 証	明	105	
現場直接	検 定 証	明	0	
移 動	証	明	8	
系 統 維 持	施設証	明	2	
黒 豚 生	産農	場	1	9件
指 定 種	豚	場	4	917
現場検	定 施	設	2	

## 2 価格安定対策

## (1) 肉用子牛関連

## ア 肉用子牛生産者補給金制度

- (ア) 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業(農畜産業振興機構・補) 平成2年度~ 59,829千円
  - a 制度運営適正化推進

肉用子牛生産者補給金制度の円滑な実施体制の確保、生産者補給金の交付 事務処理の高度化のため、事業推進や制度の充実・強化を図った。

- (a) 肉用子牛の個体識別及び個体登録と販売並びに保留確認
- (b) 契約生産者等に対する指導、補給金制度の趣旨及び内容の周知徹底
- (c) 個体登録、販売・保留等のデータ入力及び送信
- (d) 家畜市場データの収集、整理及び送信

## b 指定協会運営体制支援事業

肉用子牛生産の安定及び肉用牛経営の安定的発展のため、補給金制度の実施体制の確保、運営体制の強化を図った。

(イ) 肉用子牛価格安定資金造成費補助金(県・補)

昭和45年度~ <u>6,055千円</u> 生産者補給金の交付に充てる資金を造成し、適正な運用を図った。

- (ウ) 価格安定対策管理事業(協会事業) 平成17年度~ <u>35,608千円</u> 肉用子牛生産者補給金制度の契約を締結した肉用子牛の契約生産者から徴収 する手数料を活用して、円滑な業務の運営及び電算システムの開発・改良を行っ た。徴収額 500円/頭
- イ 基金事業(生産者・県・機構)(第7業務対象年間:令和2年度

~令和6年度)

(ア) 肉用子牛生産者積立金 平成3年度~ <u>123,440千円</u> 平均売買価格が合理化目標価格を下回る場合における生産者補給金の一部に 充てるための積立金を造成した。

(イ) 肉用子牛生産者補給金

平成2年度~ 23千円

「その他肉専用種」において、令和2年度に平均売買価格が発動基準(保証 基準価格)を下回った補填対象牛が1頭おり、補填金交付は令和3年度に行っ た。

## ウ 実施状況等

## (7) 肉用子牛生産者補給金制度

## a 生產者補給金交付契約締結状況

(単位:件)

		契約区分								
年度	個人	農協	農協連	農 組 法	合同会社	株式会社	有限会社	社団財団	( )年沙	計 (個体登録 日者数
令 和 元	6, 405	6	2	4	4	64	34	2	6, 521	(5, 147)
令和 2	5,065	6	2	3	7	65	33	2	5, 183	(4,905)
令 和 3	5, 089	6	2	2	10	71	36	2	5, 218	(4,730)

## b 事務委託先

(単位:件)

事務委託先							
農協	農協連	その他	合計				
15	1	1	17				

## c 契約肉用子牛個体登録頭数の内訳

(単位:頭)

区分		کال			
品種区分	1月~3月	4月~6月	7月~9月	10月~12月	合計
黒毛和種	17, 239	16, 195	16, 484	16, 291	66, 209
その他肉専用種	0	0	1	0	1
乳用種	178	180	154	173	685
交雑種	1,065	1, 131	986	827	4,009
合計	18, 482	17, 506	17, 625	17, 291	70, 904

## d 保証基準価格と合理化目標価格

(単位:円)

品種区分	保証基準価格	合理化目標価格
黒毛和種	541, 000	429, 000
その他肉専用種	320, 000	253, 000
乳用種	164, 000	110, 000
交雑種	274, 000	216, 000

## e 指定肉用子牛の規格

肉用子牛の種別	体	1
黒 毛 和 種	250キログラム以上 320=	ログラム以下
褐 毛 和 種	260キログラム以上 330=	ログラム以下
無 角 和 種	200キログラム以上 270=	ログラム以下
日本短角種	200キログラム以上 280=	ログラム以下
アンガス種及びヘレフォード種	260キログラム以上 310=	ログラム以下
ホルスタイン種(雌を除く)	250キログラム以上 330=	ーログラム以下
ホルスタイン種を母とする交雑種	260キログラム以上 320=	トログラム以下

## f 平均売買価格

())/	<u> </u>		$\Box$
(単	17	•	ш)
(++1	<u>'/</u>	•	1 1/

品種区分 期 間			黒毛和種	その他 肉専用種	乳用種	交雑種					
令 和	2	年 度	第	4	兀	半	期	774, 500	297, 300	249, 800	380, 500
令 和	3	年 度	第	1	兀	半	期	756, 000		246, 300	339, 000
令 和	3	年 度	第	2	兀	半	期	720, 400		245, 300	326, 900
令 和	3	年 度	第	3	兀	半	期	738, 100		237, 600	315, 400

# g 生産者積立金造成内訳

(単位:頭、円)

品種区分	個体登録	積立金	積立所要額	負	担 区	分
印怪区力	頭数	単価	[ 慎立/开安镇	機構	県	生産者
黒毛和種	66, 209	1,600	105, 934, 400	52, 967, 200	26, 483, 600	26, 483, 600
その他 肉専用種	1	18, 800	18, 800	9, 400	4, 700	4, 700
乳用種	685	6, 800	4, 658, 000	2, 329, 000	1, 164, 500	1, 164, 500
交雑種	4, 009	3, 200	12, 828, 800	6, 414, 400	3, 207, 200	3, 207, 200
合計	70, 904	_	123, 440, 000	61, 720, 000	30, 860, 000	30, 860, 000

#### h 積立金の負担区分

(単位:円)

区分	積立金単価	機構	県	生産者
黒毛和種	1,600	800	400	400
その他 肉専用種	18, 800	9, 400	4, 700	4, 700
乳用種	6, 800	3, 400	1,700	1,700
交雑種	3, 200	1, 600	800	800

	1 生産有積立金と準備金							
区分	· ·	_	保証基準価格の品種区分	黒毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳•交雑種	合計
	1.生	1.生産者積立金		96,405,624	12,400	3,962,402	13,040,805	113,421,231
期	2.生	産者	積立準備金		1,180	),622,003		1,180,622,003
首残		3.生	産者の負担金充当分		801	,720,889		801,720,889
高	内訳	4.県	の生産者積立助成金充当分		378	3,901,114		378,901,114
		5.機	構の生産者積立助成金充当分			0		0
	6.生	産者	積立金純増加額(9+12+15+18)	53,980,295	9,400	2,704,700	7,781,600	64,475,995
	7.生	産者	積立準備金からの繰入額(10+13+16)	51,954,105	9,400	1,953,300	5,047,200	58,964,005
	8.計			105,934,400	18,800	4,658,000	12,828,800	123,440,000
4-		生	9.負担金	1,013,095	0	375,700	1,367,200	2,755,995
生産		産者	10.生産者積立準備金(3からの繰入額)	25,470,505	4,700	788,800	1,840,000	28,104,005
者積		有	11.小計	26,483,600	4,700	1,164,500	3,207,200	30,860,000
立金		都	12.生産者積立助成金	0	0	0	0	0
積	内	道府	13.生産者積立準備金(4からの繰入額)	26,483,600	4,700	1,164,500	3,207,200	30,860,000
立実績	訳	県	14.小計	26,483,600	4,700	1,164,500	3,207,200	30,860,000
旭			15.生産者積立助成金	52,967,200	9,400	2,329,000	6,414,400	61,720,000
		機構	16.生産者積立準備金(5からの繰入額)	0	0	0	0	0
			17.小計	52,967,200	9,400	2,329,000	6,414,400	61,720,000
		その他	18.生産者積立金とすることを指定して寄付又は補助された財産	0	0	0	0	0
	19.特	別の	積立金から生産者積立金へ繰り入れた金額	0	0	0	0	0
	20.調	調整利	責立金から生産者積立金へ繰り入れた金額	0	0	0	0	0
	21.生	産者	補給金に充てるための全国協会等からの借入金額	0	0	0	0	0
他	22.生	上産者	者積立金に係る運用果実	1,931	0	80	265	2,276
他の資	23.生	上産者	者積立準備金に係る運用果実	22,469				22,469
金		生産	<b>全</b>	15,147				15,147
から	内訳	都道	拉府県	7,322				7,322
の繰		機構	# -					0
入状	24.生	上産者	者補給金交付額(21を含む)	0	0	0	0	0
況等	25.生	上産者	者積立金からの借入金返済額	0	0	0	0	0
4	26.生	上産者	者積立準備金から返還した金額		Ę	5,702,954		5,702,954
	生産者			Ę	5,702,954		5,702,954	
	内 訳 都道府県				0		0	
	機構				0		0	
業	27.生産者積立金(1+8+19+20+21+22-24-25)		202,341,955	31,200	8,620,482	25,869,870	236,863,507	
業務終	28.生	上産者	者積立準備金(2-7+23-26)		1,115	5,977,513		1,115,977,513
了時		29. <i>5</i>	生産者の負担金充当分		767	7,929,077		767,929,077
残 高	内訳	30.月	県の生産者積立助成金充当分		348	3,048,436		348,048,436
同	31.機構の生産者積立助成金充当分				0		0	

## j 特別の積立金、償還円滑化積立金の基金造成 基金造成実績なし

## (1) 価格安定対策管理事業(協会事業)

<生産者補給金制度>

(単位:円)

1 期首残高	0	
収入の部		
契約手数料	35, 606, 000	71,212頭×@500円
利息収入	1, 346	
制度整備運営積立金取崩収入	0	
2 当期収入計	35, 607, 346	
支出の部		
契約手数料管理		
制度運用経費 (委託先)	11, 270, 838	
制度運用経費 (市場)	9, 446, 169	
制度運用経費 (協会)	13, 811, 339	
制度整備運営積立金繰入	0	
未登録返戻金	1, 079, 000	補給金登録対象牛以外返金
3 当期支出計	35, 607, 346	
4 収支差額 (2 - 3)	0	
5 期末残高 (1 + 4)	0	

※ 契約手数料 (500 円/頭) のうち、300 円/頭は、事務委託先及び市場へ配分し、200 円/頭は、委託先パソコンリース料、データベース保守料、システム更新料などに支出

## (2) 肉用牛肥育関連

## ア 肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)

(ア) 肉用牛肥育経営安定交付金制度に係る業務(農畜産業振興機構・受)

平成30年度~ 19,091千円

肉用牛肥育経営安定交付金の適正な推進と円滑な基金運営を図るため、業務 規程に定める個体登録・販売確認等の事務を推進し、令和3年度は、64,1 13頭の登録を行った。

(イ) 価格安定対策管理事業(協会事業) 平成16年度~ <u>29,608千円</u> 肉用牛肥育経営安定交付金制度において交付契約を締結した肥育牛の契約 生産者から徴収する手数料を活用して、円滑な業務推進を図った。

令和3年度は、徴収額29,608千円(59,216頭×500円/頭)の実績となった。

## イ 基金事業(生産者・県・基)

(第1業務対象年間:平成30年12月30日~令和3年度) 平成30年度~ 689,902千円

肉用牛肥育経営の安定を図るため、生産者負担金と県補助金による基金(生産者積立金)の造成を行った。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、資金繰りが厳しい肥育農家に対して、令和3年5月まで生産者負担金の納付猶予を行うとともに、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に、その差額の9割を生産者積立金からの補塡金(1/4相当)と国の交付金(3/4相当)から交付、納付猶予期間の納付猶予対象牛及び基金が枯渇した肉専用種においては、差額の3/4を交付することで、令和3年度は全体で420,539,713円を交付した。

## ウ 実施状況等

(ア) 肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)

a 牛マルキン対象者契約締結状況

(単位:件)

区分	肥育経営	一貫経営	酪農経営	合計
個人	137	113	7	257
農協・農協連	6	3	0	9
農事組合法人	2	0	0	2
合同会社	1	4	0	5
株式会社	36	34	1	71
有限会社	22	22	1	45
その他	1	0	0	1
合計	205	176	9	390

## b 登録頭数状況

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
肉専用種	46, 283	49, 219	50, 083	51, 347	50, 754
交雑種	10, 021	11, 268	9, 967	11,026	11, 434
乳用種	2, 620	1, 914	1, 921	2, 052	1, 925
合計	58, 924	62, 401	61, 971	64, 425	64, 113

(単位:頭)

(単位:円)

## c 制度実施基準

交付金拠出割合	生産者+県 1 : 機構 3
事業実施期間	平成30年12月30日 ~ 令和3年度
発動基準	毎月の肥育牛1頭当たりの「標準的販売価格」が「標準的生産費」 を下回った場合にその差額の9割を交付
対象品種	肉専用種、交雑種、乳用種
算定方式	肉専用種はブロック算定方式を採用

## d 積立金単価 (令和3年度最終単価)

区分	負担金単価	内訳		請求月齢	
<b>运</b> 为		生産者	県	前外月 烟	
肉専用種	5, 000	4, 400	600	満25か月齢	
交雑種	13, 000	12,600	400	満22か月齢	
乳用種	11,000	10, 400	600	満18か月齢	

# e **事務委託先** (単位:件)

区分	農協	農協連	その他	合計
平成29年度	14	1	2	17
平成30年度	14	1	2	17
令和元年度	14	1	2	17
令和2年度	14	1	2	17
令和3年度	14	1	2	17

## f 交付金交付状況

		交付	対象	L/L/ Lable -		交付額(円)	
期間	品種区分	人数	頭数	機構の - 交付金単価 -	合計	機構	生産者
		(人)	(頭)	文刊 金単価	(4/4)	(3/4)	(1/4)
	肉専用種	0	0		0	0	(
令和3年1月	交雑種	37	723	3, 353. 8	1, 847, 115	1, 818, 607	28, 508
令和3年1月 (精算払)	乳用種	8	136	3, 495. 1	356, 502	356, 502	(
	計	45	859		2, 203, 617	2, 175, 109	28, 508
	肉専用種	254	3, 527	27, 443. 7	72, 595, 267	72, 595, 267	(
令和3年2月	交雑種	40	793	82, 541. 7	49, 875, 793	49, 091, 647	784, 146
	乳用種	9	124	48, 483. 9	4, 508, 996	4, 508, 996	(
	計	303	4, 444		126, 980, 056	126, 195, 910	784, 146
	肉専用種	0	0		0	0	(
令和3年3月	交雑種	38	919	26, 658. 9	18, 614, 551	18, 374, 620	239, 931
市和3年3月	乳用種	9	174	54, 922. 5	7, 181, 112	7, 167, 382	13, 730
	計	47	1,093		25, 795, 663	25, 542, 002	253, 661
	肉専用種	0	0		0	0	(
令和3年4月	交雑種	0	0		0	0	(
日和も中華力	乳用種	8	176	35, 362. 8	4, 667, 883	4, 667, 883	(
	計	8	176		4, 667, 883	4, 667, 883	(
	肉専用種	0	0		0	0	(
令和3年5月	交雑種	0	0		0	0	(
77473年3万	乳用種	8	143	21, 505. 5	2, 306, 460	2, 306, 460	(
	計	8	143		2, 306, 460	2, 306, 460	(
	肉専用種	0	0		0	0	(
令和3年6月	交雑種	39	897	26, 485. 2	17, 910, 595	17, 817, 897	92, 698
同和る中も万	乳用種	11	203	29, 786. 4	4, 542, 417	4, 534, 971	7, 446
	計	50	1, 100		22, 453, 012	22, 352, 868	100, 144
	肉専用種	0	0		0	0	(
令和3年7月	交雑種	41	860	40, 140. 9	25, 981, 167	25, 890, 849	90, 318
市和3年7月	乳用種	11	195	33, 510. 6	5, 026, 582	4, 900, 917	125, 665
	計	52	1,055		31, 007, 749	30, 791, 766	215, 983
	肉専用種	252	3, 799	11, 376. 0	33, 146, 820	32, 413, 068	733, 752
令和3年8月	交雑種	37	891	61, 515. 0	43, 245, 037	41, 107, 387	2, 137, 650
13/14/0 1 0 7/1	乳用種	12	168	29, 024. 1	4, 418, 915	3, 657, 031	761, 884
	計	301	4,858		80, 810, 772	77, 177, 486	3, 633, 286
	肉専用種	254	4, 158	20, 907. 9	69, 858, 345	65, 201, 101	4, 657, 244
令和3年9月	交雑種	37	878	20, 589. 3	15, 364, 738	13, 558, 026	1, 806, 712
14 114 0 1 0 74	乳用種	11	158	35, 327. 7	5, 060, 685	4, 186, 324	874, 361
	計	302	5, 194		90, 283, 768	82, 945, 451	7, 338, 317
	肉専用種	0	0		0	0	(
令和3年10月	交雑種	36	876	17, 713. 8	13, 927, 457	11, 637, 942	2, 289, 515
	乳用種	10	129	22, 146. 3	2, 773, 819	2, 142, 648	631, 171
	計	46	1, 005		16, 701, 276	13, 780, 590	2, 920, 686
	肉専用種	0	0		0	0	(
令和3年11月	交雑種	0	0	00.000.0	0	0 014 476	1 000 01
	乳用種	9	158	33, 033. 6	5, 202, 787	3, 914, 476	1, 288, 311
	計	9	158		5, 202, 787	3, 914, 476	1, 288, 311
	肉専用種	0	0		0	0	(
令和3年12月	交雑種	0	0	40, 400, 0	0 407 000	0	(
	乳用種	11	160	40, 420. 8	6, 467, 323	4, 850, 487	1, 616, 836
	計	11	160		6, 467, 323	4, 850, 487	1, 616, 836
A= 4 = 1 = 1	肉専用種	0	0		0	0	(
令和4年1月 (概算払)	交雑種	0	0	45.051.0	0	0	(
	乳用種	9	125	45, 274. 8	5, 659, 347	4, 244, 507	1, 414, 840
	計	9	125		5, 659, 347	4, 244, 507	1, 414, 840
	肉専用種	760	11, 484		175, 600, 432	170, 209, 436	5, 390, 996
合計	交雑種	305	6, 837		186, 766, 453	179, 296, 975	7, 469, 478
н н і	乳用種	126	2, 049		58, 172, 828	51, 438, 584	6, 734, 244
*	計	1, 191	20,370 水丸 床 対 免	生(肉恵田種)	420,539,713 オ 国豊のみ3/4	400, 944, 995	19, 594, 718

<sup>\*</sup>生産者負担金の納付猶予対象牛及び払底対象牛(肉専用種)は、国費のみ3/4を交付した。

# g 積立金造成実績

(単位:円)

		品種区分					(単位:円)
	区分	即任色分	肉専用種	交雑種	乳用種	県補助準備金	合 計
期	1	積立金造成額	159, 326, 907	119, 565, 204	21, 459, 506		300, 351, 617
期首残高	2	宮崎県補助準備金資産				104, 860, 747	104, 860, 747
局	3	合計(1+2)		300, 351, 617		104, 860, 747	405, 212, 364
	4	積立金造成合計(5+6)	190, 880, 000	123, 604, 000	17, 446, 000		331, 930, 000
		5 生産者負担金造成額	133, 674, 400	111, 350, 800	15, 063, 400		260, 088, 600
期		6 宮崎県補助金造成額	57, 205, 600	12, 253, 200	2, 382, 600		71, 841, 400
期中増.	7	果実合計(8+9)	2, 127	1, 567	261	10, 589	14, 544
加		8 積立金の運用により生じた 果実	2, 127	1, 567	261		3, 955
		9 宮崎県補助準備金資産の運用 により生じた果実				10, 589	10, 589
	10	合計(4+7)	190, 882, 127	123, 605, 567	17, 446, 261	10, 589	331, 944, 544
期	11	補塡金交付額合計	5, 390, 996	7, 469, 478	6, 734, 244		19, 594, 718
期中減	12	2からの宮崎県補助準備金造成額				27, 660, 400	27, 660, 400
少	13	合計(11+12)	5, 390, 996	7, 469, 478	6, 734, 244	27, 660, 400	47, 255, 118
期	14	積立金造成額 (1+4+7-13)	344, 818, 038	235, 701, 293	32, 171, 523		612, 690, 854
期末残	15	宮崎県補助準備金資産 (2+9-12)				77, 210, 936	77, 210, 936
高	16	合計(14+15)		689, 90	1,790		689, 901, 790

#### (イ) 価格安定対策管理事業(協会事業)

	区 分	金額	備考
1	期首残高	0	
	収入の部		
	契約事務手数料	29, 608, 000	59, 216 頭×500 円
	雑収入	1, 614	受取利息
2	当期収入計	29, 609, 614	
	支出の部		
	個体識別技術料 (委託先等)	6, 795, 900	
	事務費 (委託先等)	3, 146, 000	
	事務運営経費	13, 520, 224	
	システム等備品購入	4, 004, 000	WEB マルキンシステム用サーハ゛ー
3	当期支出計	27, 466, 124	
4	収支差額(2 - 3)	2, 143, 490	
5	期末残高(1 + 4)	2, 143, 490	R4 年度 WEB マルキンシステム改修費

<sup>※</sup> 契約事務手数料 (500 円/頭) については、事務委託先等へ個体識別技術料 (上限 200 円/頭) や事務費 (50 円/頭) として支出した他、事務運営経費としてWEBマルキンシステムの保守料や更新料、WEBマルキンシステムのサーバー購入費用等に支出した。

## 工 肥育牛経営等緊急支援特別対策事業

## (ア) 肥育牛生産支援事業(中央畜産会・受)

#### 令和2年度~ 601,968千円

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う牛肉価格・需要の変動に対応するため、経営体質の強化等の取組を行う肉用牛肥育経営生産者に対し、出荷頭数に応じて奨励金(2万円/頭)の支援を行うもので、令和3年度は29,821頭に対し、596,420千円の交付を行った。

#### (イ) 肉用牛肥育経営体質強化支援事業(県・補)

#### 令和3年度~ 44, 181千円

新型コロナウイルス感染拡大による国の影響緩和対策として牛マルキン制度の生産者負担金の納付が令和2年4月以降猶予されていたが、令和3年6月から再開された。しかしながら、納付再開により経営環境がさらに圧迫されることが懸念されたため、制度に加入する肥育農家が、経営改善計画に基づく体質強化の取組を実践する場合において、生産者負担金の一部を追加支援するもので、令和3年度は44,181頭に1頭当たり1,000円の支援を行った。

# (3)養豚関連

## ア 肉豚経営安定交付金制度(豚マルキン)

## 肉豚経営安定対策事業(県・基)

令和3年度~ 78,409千円

県から交付された補助金により、肉豚経営安定対策事業基金を造成し、その基金から生産者負担金に対応する県の負担金を農畜産業振興機構に支出した。

#### イ 実施状況等

## (7) 負担金単価 (負担割合) 生産者+県1:機構3

生産者		機構	計
生産者負担額	県負担額	7茂7冉	μΙ
330円	70円	1,200円	1,600円

## (イ) 積立金

生産者数	頭数	生産者負担金	県負担金
145戸	1,120,122頭	369, 640, 260円	78, 408, 540円

<sup>※</sup> 令和3年度は、補塡金発動なし

<sup>※</sup> 生産者負担金は、生産者が機構へ直接積立を行う。

## 3 衛生指導対策

## (1) 自衛防疫関連

ア みやざきの家畜防疫強靱化事業(県・補)

令和3年度~令和5年度 8,683千円

水際防疫、地域防疫を強化し、より高い水準での防疫体制を構築することで、家畜 伝染病の発生及びまん延を防止し、畜産経営の安定化を図った。

地域防疫対策:11自防、2市2町

水際防疫対策: 4団体

## イ みやざきの家畜防疫強靱化事業(県・受)

令和3年度~令和5年度 10,801千円

「県内一斉消毒の日(毎月20日)」の啓発及び実施状況の確認を行うとともに、 農場防疫の強化を図るため、飼養衛生管理基準の周知徹底、家畜伝染病予防法に基づ く農家・農場情報の収集、報告の取りまとめを行った。

## ウ 家畜防疫・衛生指導対策事業(地域自衛防疫活動推進事業) (中央畜産会・補) 令和元年度~令和3年度 2,905千円

家畜伝染病発生時の防疫対応を円滑に実施するため、生産者及び関係者による初動防疫の演習等、地域自衛防疫体制の維持、強化を支援した。

防疫演習の実施:小林市、えびの市、三股町、川南町

## (2) 衛生指導関連

ア 家畜防疫・衛生指導対策事業(地域農場HACCP認証支援事業)

(中央畜産会・補) 令和元年度~令和3年度 2,911千円

家畜の衛生管理及び畜産物の安全性向上、さらには国際的な競争力の強化等を目指し、農場HACCP認証取得に取り組む畜産農家への技術指導支援と取組の広域的な普及を図った。

農場HACCP構築支援農場:肉用牛5農場、豚2農場、鶏4農場

#### イ 地域豚疾病低減対策強化事業(中央畜産会・補)

令和2年度~令和3年度 25,751千円

養豚農場の生産性を阻害する豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)の発生低減・排除に地域全体で取り組む自衛防疫組織に対して、採材・検査及び防疫対策に係る経費の支援を行い、疾病発生の低減を図った。

- (7) 地域推進会議:2回
- (イ) 地域衛生対策:巡回指導事業、着地・モニタリング・清浄化推進検査 (抗体検査、遺伝子検査、他)

## ウ 家畜生産農場衛生対策事業(国・補) 平成2年度~ 23,529千円

牛伝染性リンパ腫(BL)や牛ウイルス性下痢(BVD)の感染拡大を防止するための検査等、生産農場における組織的な取組による疾病の流行防止対策を推進し、家畜の損耗防止を図った。

## (ア) B L 対策

a 抗体検査頭数 : 10, 263頭 b 高度感染牛とう汰: 0頭

## (イ) ヨーネ病対策

a とう汰 : 0頭

#### (ウ) BVD対策

a 抗体検査頭数:0頭b とう汰:7頭

#### (工) 疾病流行防止支援対策

- a ワクチン接種の推進及び接種計画策定会議の開催
- b 吸血昆虫が媒介するアカバネ病の発生・流行防止のためワクチン接種を推進 し、家畜の損耗防止を図った。

# エ 牛疾病検査円滑化推進対策事業(国・補) 平成15年度~ 9,424千円 県内で死亡した96か月齢以上の牛(特例を除く)の所有者に対し、運搬・処理に

要する経費を支援し、死亡牛の適正処理とBSE検査の円滑な実施を推進した。

	月齢	補助対象	区分		事業費 (円)	
	区分	死亡牛頭数	<b>△</b> 刀	輸送促進費	適正処理費	合計
Ī	96 か月	002 亩	事業費	3, 884, 700	13, 800, 600	17, 685, 300
	齢以上	902 頭	補助金	1, 765, 719	6, 272, 508	8, 038, 227

## オ 牛慢性疾病対策事業(県・補) 令和2年度~令和4年度 5,159千円

牛伝染性リンパ腫の清浄化を推進するため、採血に要する経費を助成し、家畜の損耗防止を図った。

採材料補助: 8, 425頭 検査料補助: 248頭

## カ 野生獣衛生推進体制促進事業(中央畜産会・補)

## 令和2年度~令和4年度 2,924千円

イノシシやシカ等の伝染病保有状況調査を行い、これらを踏まえた関係者間の情 報共有や生産者への侵入防止対策の普及により、野生獣被害防止の体制整備を推進 した。

(ア) 地域衛生技術連絡協議会(研修会を含む)の開催:3回

#### (4) 野生獣衛生実態等調査事業

区分	計画頭数	実施頭数	検査対象疾病名
イノシシ	145	187	オーエスキー病、CSF、PRRS
イノシシ	15	15	E型肝炎、0-157、黄色ブトウ球菌等
シカ	35	35	E 型肝炎、0-157、黄色ブトウ球菌等

## キ 特定疾病等防疫事業 (協会事業) 昭和47年度~ 276,310千円

(単位:頭、羽)

(ア) 予防接種事業

区分	計画	実績	実績比	(参考:前
区 分	頭数	頭数	(%)	年度実績)
豚丹毒(生)	2,000	1, 990	99. 5	1,863
豚丹毒(不活化)	360	0	0	345
オーエスキー病	2, 200	3, 534	160.6	2, 889
牛呼吸器 5 種混合(生)	64,000	62, 880	98.3	61, 686
牛呼吸器 5 種混合 (不活化)	270	293	108.5	280
牛ヒストフィルス・ソムニ感染症	23, 000	22, 966	99.9	22, 236
牛呼吸器6種混合(不活化)	10	125	1, 250. 0	4
牛異常産3種混合	0	0	_	2, 131
牛異常産4種混合	60,000	58, 811	98.0	57, 342
イバラキ病	27, 000	25, 208	93.4	25, 662
牛流行熱	0	0	_	0
牛流行熱・イバラキ病混合	160	59	36. 9	68
炭疽	18,000	18, 023	100. 1	17, 779
馬 3 種混合	44	37	84. 1	29
馬日本脳炎	10	9	90.0	6
馬インフルエンザ	38	39	102.6	36
馬鼻肺炎	14	10	71.4	10
ニューカッスル病	0	0	_	0

#### (4) 自衛防疫組織強化推進事業

自衛防疫組織の体制強化を図るため、市町村自衛防疫推進協議会に対して予防注射の実績に応じて、事業推進費を交付した。

項目	交付箇所数	交付金額
自衛防疫事業推進費	26 か所	5, 709, 040 円

#### (ウ) 自衛防疫推進事業

自衛防疫事業の適切な実施を図るため、県自衛防疫推進委員会及び地区自衛防疫 推進協議会等の会議を開催した。

項目	開催	内 容
宮崎県自衛防疫推進委員会	이터	令和3年度事業報告、令和4年度計画
	2回	各種予防注射事業の対価等について
地区自衛防疫推進協議会		地域における事業実績、計画について
地区日斛趵发推连肠硪云	5 回	地域の予防注射事業の推進について
市町村自衛防疫担当者会	2 回	事業推進のための事務打合せ、研修等

## (工) 予防注射事故対策事業

当協会が行う家畜の予防注射事業により、予防注射が原因で家畜の死亡、死・流産、副反応が発生したため、家畜所有者に対して事故見舞金を交付した。

畜種	事故の 種類	予防注射の種類	月(胎)齢	事故数	見舞金 交付額
牛(黒毛)	死亡	牛異常産4種混	144 か月齢	1件1頭	122,000 円
牛(黒毛)	死産	牛異常産4種混	胎齢8か月齢	1件1頭	71,000 円
牛(黒毛)	流産	牛異常産4種混	胎齢 1~3 か月齢	6件6頭	251,000円
牛(黒毛)	流産	炭疽生	胎齢7、8か月齢	3件3頭	213,000 円
牛(黒毛)	副反応	牛異常産4種混	74 か月齢以上	5件5頭	25,000 円
牛(黒毛)	副反応	牛呼吸器 5 種混	8、9か月齢	5件5頭	25,000 円
牛(黒毛)	副反応	牛呼吸器 5 種混、 ヒストフィルス・ソムニ	5、6か月齢	4件4頭	20,000円
計					727,000 円

## ク 馬飼養衛生管理特別対策事業(中央畜産会・補) 平成10年度~ 691千円

実態調査により多様化する馬の飼養環境を的確に把握するとともに、講習会や協議会等を開催し、飼養者の衛生管理に対する意識向上や関係者の連携構築を図り、馬の飼養衛生管理体制の強化を推進した。

(7) 地域馬飼養衛生管理体制整備検討委員会:1回

(4) 馬飼養衛生管理技術地方講習会 : 1回

(ウ) 地域馬獣医療実態調査 : 1回

(工) 馬飼養衛生基礎技術実習 : 1回

## ケ 馬伝染性疾病防疫推進対策事業(中央畜産会・補)

平成27年度~ 1,169千円

乗用馬及び繁殖牝馬等への各種ワクチン接種を支援することで、馬伝染性疾病の防 疫強化を推進した。

(ア) 馬インフルエンザ予防接種頭数 : 延べ 6 頭 (イ) 馬鼻肺炎予防接種頭数 : 延べ10頭

コ **育成馬等予防接種推進事業(中央畜産会・補)** 平成10年度~ <u>176千円</u> 競走用育成馬等に対する馬3種混合、馬インフルエンザ及び日本脳炎の予防接種を 支援した。

区分	馬3種混合 (日本脳炎、破傷風、馬インフルエンサ <sup>*</sup> )	馬インフルエンザ	日本脳炎
接種頭数(延べ)	3 5 頭	29頭	9頭

## (3) その他

ア 家畜防疫互助基金支援事業(中央畜産会・受) 平成10年度~ <u>7,221千円</u> 口蹄疫、豚熱等の海外悪性伝染病が万一発生した場合に備えて、畜産経営への影響 緩和を目的に、国と生産者の積立金による互助補償制度の推進を図った。

(第8期事業実施期間:令和3年度~令和5年度分)

契約戸数		對数	家畜の種類	契約頭数	生産者積立金
(戸)		)		(頭)	(円)
			乳用牛 (24 か月齢以上)	10, 285	2, 519, 825
乳			乳用牛 (24 か月齢未満)	4,602	414, 180
用牛			肉専用種繁殖牛(24か月齢以上)	94, 442	22, 193, 870
• 4	4	, 525	肉専用種繁殖牛(24か月齢未満)	178, 079	22, 259, 875
肉用			及び肉専用種肥育牛	170,019	
用牛			肉専用種と乳用種の交雑肥育牛	20, 273	1, 925, 935
			乳用種肥育牛	3, 630	326, 700
	家	家 族 82 型	繁殖用種豚(雌)	5, 924	2, 221, 500
	族		繁殖用種豚(雄)	394	147, 750
豚			肥育豚	65, 167	6, 842, 535
乃入	企	企 業 62 型	繁殖用種豚(雌)	49, 569	19, 331, 910
	業		繁殖用種豚 (雄)	1, 254	489, 060
	型		肥育豚	565, 992	62, 259, 120
計	4	, 669		999, 611	140, 932, 260

## イ 獣医師確保対策強化事業(国、県、NOSAI・補)

攻学生2名に対し修学資金を給付した。

平成25年度~ 4,009千円

産業動物獣医師確保のため、獣医専攻学生2名に対し修学資金を給付した。

ウ **獣医師職員育成資金給付事業(県・補)** 平成29年度~ <u>3,558千円</u> 食の安全・安心や動物衛生等の業務を行う県職員獣医師の確保を図るため、獣医専

## 4 事務局受託業務

#### (1) 宮崎県畜産振興協議会

家畜の改良と畜産経営発展のため農林水産祭参加行事として、第63回宮崎県畜産共 進会を開催した。

#### <開催日及び場所 >

出品部門	開催日	場所	
第1部 乳用種種牛	11月27日	都城地域家畜市場	
第2部 肉牛枝肉	10 H 96 H	(株)ミヤチク 高崎工場	
第3部 肉豚枝肉	10月26日		

#### <各部出品点数と首席 >

出品部門	出品点数	グランドチャンピオン出品者	
第1部 乳用種種牛	60 頭	都城市	今 山 陽 一
第2部 肉牛枝肉	100頭	新富町	(株) 壱岐ファーム
第3部 肉豚枝肉	156 頭(26 組)	串間市	山崎一博

### <団体優勝 >

出品部門	出品団体
第1部 乳用種種牛	宮崎経済連 都城地域
第2部 肉牛枝肉	西諸県郡市畜産販売農業協同組合連合会
第3部 肉豚枝肉	都城農業協同組合

#### (2) 宮崎県馬事畜産振興協議会

地方競馬全国協会が実施する畜産振興補助事業の円滑な推進を図るとともに、地方競馬並びに本県の畜産や畜産物のPRを行うため、「冠レース」への副賞提供を行った。

開催日	競走名	副賞
令和3年7月4日(日)	RKB ラジオ杯第 4 回佐賀王冠賞	宮崎牛
		県産畜産加工品

#### (3) 一般社団法人宮崎県畜産会館

- (4) 宮崎県郡畜連合会議
- (5) 宮崎県コントラクター等協議会
- (6) 宮崎県堆肥センター協議会
- (7) みやざき養豚生産者協議会
- (8) 宮崎県養豚人材育成協議会
- (9) 宮崎県指定種豚場協会
- (10) 宮崎県養蜂組合
- (11) 宮崎県養蜂等振興推進協議会
- (12) 宮崎県獣医師確保推進協議会